

令和元年度 白馬幼稚園 「自己評価および園関係者評価」

1. 園の教育目標

“みんなのびのび えがおぼかぼか はくばっこ”

～ 白馬の恵まれた自然の中で 心豊かな子どもを育もう ～

2. 本年度の重点目標

- ・多くの豊かな体験活動から 科学的なものの見方や考え方ができる子
- ・失敗をおそれず どんなことにも 楽しく挑戦する子
- ・歌って自分を励まし、歌って仲間の輪を広げようとする子

3. 自己評価

A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組んでいるが、成果が十分でない D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価
教育課程・指導	・園は目指している教育目標、本年度の重点目標を周知している。	A
	・教育課程実施において、教職員は共通理解をしている。	B
保健管理	・日常の健康観察や、疾病予防のための取り組みや健康診断などを行っている。	A
安全管理	・事故やケガ等発生時の危機管理マニュアルが整備されている。	A
組織運営	・園長は教育目標の達成に向けリーダーシップを発揮し、職員をリードしている。	A
	・園運営が適切に機能するために、運営・責任体制の整備を行っている。	A
研修（資質向上への取組）	・法人実施の研修会への参加と、園内研修会の実施をしている。	A
	・日々の保育の振り返りと課題を明確にしている。	A
教育目標・園評価	・幼児の実態、保護者の意見要望などを踏まえた園目標を設定している。	A
	・保護者アンケートの実施と、学校関係者委員会（モニター会）を設置している。	A
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。	A
情報提供	・園公開を実施し、園の取り組みを広く情報提供している。	A
	・園の情報を広く公開するために、ホームページ等を活用している。	A
保護者・地域住民との連携	・PTA や学校関係者委員会（モニター会）等で定期的に懇談会を実施している。	A
子育て支援・預かり保育	・地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握している。	A
	・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育・希望保育事業を実施している。	A
教育整備環境	・子どもの成長に則した教育環境になるよう工夫を重ねている。	A

4. 評価分析

- ・この評価は、園がどのように取り組んでいるかという評価である。各先生方はこの取り組みに関して、自分自身では不十分であると感じている方もいる。その自己評価は各自が自己評価をしているので、その評価についてはここには反映されていない。
- ・この項目にそった園運営をしているわけではないが、信学会の方針であり、園としてやらなければならないことである。
- ・多くの箇所ですべて達成しているわけではないが、本園でできる限りのことは精一杯しているので自己評価は十分達成していると評価される。
- ・預かり保育、希望保育の要望は十分分かっているが、今の体制ではこれが限界である。

5. 次年度への課題

- ・園としては、評価の通り精一杯やってきた。職員の負担は大きいですが、前向きに努力してきたことはお互い認めていきたい。一人の職員が仕事の負担を感じ、不安を感じた時でも、みんなが支え合い、励まし合ったことはとてもよかった。ただ、この評価を当たり前のことだと受け止めず、研鑽を積み、仕事に対し低姿勢で、誇りを持って当たっていきたい。